

第1回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

■開催日時

令和8年1月29日（木）午後4時00分から午後6時00分

■開催場所

富良野文化会館 会議室BC

■出席者

＜委員＞北会長、軽米委員、菅原委員、寺山委員、牛島委員、鷺田委員、及川委員、後藤委員、遠藤委員、吉中委員、寺島委員、菅原委員、山崎委員、小瀬委員、岩井委員、濱本委員（計16名）

※欠席委員 小林委員、田畑委員、篠原委員、丸山委員（計4名）

＜事務局＞近内教育長、関澤総務部長、北川市民生活部長、柿本保健福祉部長、西出建設水道部長、佐藤教育部長、本田経済部長、川上ぶどう果樹研究所長、西野スマートシティ戦略室長、上坂財政課長、小笠原企画振興課長、鷺見企画振興係長

1. 開会（午後4時00分）

事務局より、出席委員及び配布資料の確認

2. 市長挨拶

第1回の富良野市総合計画総合戦略有識者会議に、それぞれご多忙のなかご出席をいただきましたことに感謝申し上げます。日頃から行政運営、まちづくりに携わっていただきお礼申し上げます。第6次富良野市総合計画中期基本計画につきましては、令和5年度よりスタートし、4年間の計画期間でございまして、これから後半の時期に差し掛かっているところでございます。まちづくりのスローガンに沿い、今後めざすべく将来の方向性を計画のなかで示させていただくとともに、ゼロカーボンシティの推進や様々な分野を含め人材不足対策、物価高対策等、本市が抱える様々な課題に対して、総合計画に基づきながら、取り組みを皆さんとともに加速させていきたい。

本日の協議事項につきましては、幸福度調査の報告、総合計画中期計画の進捗状況、でございます。詳細については、後ほど事務局からご説明申し上げますが、委員の皆様方には、客観的な視点と各分野の専門的な知見から、どうぞ忌憚のないご意見をいただきますよう、お願い申し上げます。

※ここで出席委員紹介。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

3. 議題

(1) はじめに

北市長から、本日の会議については、中期基本計画の進捗を共有し、富良野市の現在地について全体で目線をあわせるということをゴールにしたいと考えている。

基本構想がちょうど折り返しに差し掛かっている中で、今何が進んでいて、どのような兆しが見えているかなどを共有していきたい。

令和9年度からの後期基本計画策定の方向性についてはまた別の機会を設けて改めて整理していきたいという事をご承知おき願いたい。

この後の報告を受けて有識者の方々からは、報告を受けて感じたことや気になった点についてコメントをいただきたい。また、可能であればこの場で共有しておきたい市内の新たな兆候といった情報についてもご紹介いただきたい。

本日の議論で浮かび上がった視点や論点は次回以降の検討材料として受け止め、それらも今後の後期計画へのアップデートにつなげていきたい。

(2) 【報告】富良野市の「幸福度」の現在地と今後の可能性について

大曾根氏から別添報告資料に基づき説明。

道総研・牛島主幹から「幸せのタネ」について資料に基づき説明。

(3) 【資料1】第6次富良野市総合計画中期基本計画の進捗について

小笠原企画振興課長から資料①に基づき説明。

【委員からの主な意見・コメント】(テーマ別に整理)

■幸福度・ウェルビーイングに関する意見

- ・幸福度の数値化・可視化の重要性が指摘された。
- ・「言われてみればそうだ」と感じる層の実感を今後の取組においてどう高めるかが課題である。
- ・主観データと客観データのズレをどう埋めていくのかはとても難しいように感じるがどう進めていくのが良いのか一緒に考えていきたいという意見があった。
- ・「しあわせのタネ」を支所など様々な場所で掲示・共有する提案があった。

■子育て・子ども・教育に関する意見

- ・麻町児童センターの老朽化、公園の関係など今後の動向が気になるとの意見があった。
- ・不登校児童の居場所について、実態把握(人数、公的な居場所の利用状況等)の必要性が示された。そして居場所づくりの必要性が語られた。

【教育部長より】

⇒まいくらすについては常時5名ほどの利用があり、フリースクール1件を把握しているとの発言があった。

・子ども計画の策定に関して、講演会等の対象範囲を広げることや、世代を問わず参画できる機会の充実が提案された。

・世代を問わず、富良野でしかできない体験をできるという事は非常に大切なことだと感じるが、学校現場でもできることとできない事を整理していく必要性も感じる。

■観光、民泊などに関する意見

・民泊の増加について、登録数と実態に差があるのではないかと懸念が示された。

【経済部長より】

⇒制度の説明をしつつ、状況の確認と併せあらためて相談をしていきたい。

・市としての把握や対応、揭示義務・ゴミ問題等への対策強化を求める意見があった。

・宿泊関係におけるキャンセル後の埋まりにくさが指摘され、調査・改善の余地があるとの意見があった。

■自然環境・鳥獣被害に関する意見

・鹿やアライグマ等の獣害について危機感が示され、抜本的な対策が必要との意見があった。

・農業者が納得できる状態には至っていないため、継続的な検討が求められた。

■外国人労働者・多文化共生に関する意見

・外国人労働者の増加（特に若年層）が重要であり、多文化共生の取組を継続・強化すべきとの意見があった。

・日本語学習や交流機会の充実、孤立させない支援が必要とされた。

【市民生活部長より】

⇒策定時に外国籍住民の増加については盛り込まれていなかったためこの後の計画には十分反映させていく必要がある。

■農業の担い手、企業の働き手に関する意見

・新規就農より離農が上回る状況が示され、担い手不足への危機感が共有された。

・雇用・所得の満足度の低さ、付加価値向上の必要性が指摘された。

■教育・若者の進路に関する意見

・人口減少を逆転する発想として、特色ある学科等による差別化・魅力づくりを検討すべきとの意見があった。

・魅力のある学校や、カリキュラム、高校卒業後の進路などを含めて考えて若年人口の定住や次世代へのつながりが見込めるのではないかと意見があった。

■デジタル・情報発信に関する意見

・ホームページの検索機能の改善、サイトマップ等の分かりやすい導線整備が提案された。

・ライブカメラ等の情報提供について、最新情報の整理・発信強化が求められた。

【経済部長より】

⇒今現在、スキー場の雰囲気などをしっかり伝えられるように調整中。

（４）今後について

小笠原企画振興課長から以下のとおり説明

本日は、幸福度の報告および中期基本計画の進捗報告を受けて、委員の皆さまから所感やご意見などをお聞かせいただきました。本日頂戴したご意見は、事務局で整理しまして、後期計画策定のための材料として活かしていきたいと考えています。

今後の動きにつきましては、後期計画策定に向けた“方向性”などの検討の機会を、出来ればこの春など、早めのタイミングで設けてまいりたいと考えております。

そして、そこでの検討結果を踏まえまして、初夏から夏頃には各課での進捗管理を含む現状の整理、KPI、施策等のアップデート作業を行った上で、秋から冬にかけての後期計画の具体化につなげてまいりたいと考えております。

ざっくりとしたスケジュール感は以上ですが、より具体的な日程等については、本日の内容を踏まえ改めて調整してまいりますので、ご了承願います。以上が今後の進め方です。

４．その他

特になし

５．閉会（午後６時００分終了）

北会長より、今回の意見を大切に後期計画に盛り込みつつ策定していきたい旨の総括があった。幸福度・幸福感の視点なども強調し、主観と客観を埋める分析を進めたいとの発言があった。